

仮約：IISI メディアリリース（2007 年 10 月 9 日・ベルリン）

気候変動問題への取組みに向けた鉄鋼業のグローバル・アプローチ

世界の鉄鋼業のリーダーは、気候変動問題への取組みに関する 7 つの政策コミットメント（本年 3 月策定）に引き続き、鉄鋼業が気候変動問題への取組みに貢献する最良の方法として、グローバル・アプローチを支持する。ベルリンにて開催された IISI 年次総会において、理事会は鉄鋼業のグローバルなセクトラル・アプローチ確立に向けた次なるステージについて承認した。

これは、全ての主要製鉄国の製鉄所による CO2 排出データの収集・報告を含む。共通で首尾一貫したデータの確立は、国・地域ベースにおけるポスト 2012 年のコミットメント設定の出発点となる。

北米、西欧、日本の鉄鋼業は主要な技術先進性を通じて、過去 25 年間に生産単位当たりエネルギー消費を 49% も削減してきた。しかし同時に、世界の鉄鋼生産は劇的に拡大した。現在、鉄鋼業は世界の人工的 GHG 排出量の 3-4% を排出するに過ぎない。鉄鋼業の排出量の 90% 超は 9 カ国・地域の銑鉄生産から生じており、その 9 カ国・地域とは、中国、EU27、日本、米国、ロシア、インド、ブラジル、ウクライナ、韓国である。

IISI エグゼクティブコミティーメンバーでコーラス社 CEO の Philippe Varin 氏は次のように述べている。「現在 EU で行われているような Cap and Trade 政策は、CO2 排出量削減に効果的でない。排出面でベストな操業をしている製鉄所の生産を抑制することは、鉄鋼業のように世界で競争している産業にとっての解決策とはならない。鉄鋼業にとっての効果的なアプローチには、全ての主要製鉄国の参加と、生産単位当たり排出量の改善に焦点を当てることが求められる。」

更に同氏は次のように述べている。「短期的には、鉄鋼業の主たる貢献は現在のベスト・プラクティス及び技術をより広く普及させることである。より長期的には、鉄鋼業はブレークスルーとなる新たな生産技術の研究開発に投資を行っている。最もリサイクルの進んだ近代的素材である鉄鋼製品は今や、持続可能な社会の構築（建設やクリーン・エネルギー、輸送）に不可欠の貢献を果たしており、これら取り組みは全てこの貢献の一環として位置づけられるものである。」

以 上